

● サポーターが増えていくために何か考えていることはありますか？

やはり選手がもつと前面に出ることが大切です。うちはサポータークラブの年会費が他のチームに比べ高いんです。なのでそれに見合うように活動していかなければならないと考えています。和歌山県は縦に長いので全員に知ってもらうのは難しいですけど広くかかわっていきたくて少し意識調査なども考えています。

● Jリーグ参戦に向けて



● チームの魅力とは？

地域活動を大切にしていることですね。これは、選手一人一人が地域とつながっているということなんです。まず自分の周りの人に応援してもらえるようにする。勝敗にかかわらず応援してもらえるなど選手一人一人が地域に根づく意識を持って活動しています。



和歌山に新たなシンボルを

～サッカーファンからの挑戦～

児玉佳世子さん GM兼副理事長

かつては横浜・F・マリノスのゴール裏のサポーターとして全国を飛び回っていた児玉氏が地元“和歌山”でサッカーチームを作りJリーグを目指す。児玉氏から見たチームの現状やその先とは…

TEXT BY 宮田 廉 流通学部

● Jリーグに向けて必要なことは何ですか？

一番はスタジアムですね。和歌山には、客席数や施設の構造などJ1・J2のライセンスを満たすスタジアムが無く、作るには観客動員や収入面などを満たさないと行政も動きません。スタジアムを作るという方向にもっていく為に一番良いのは県民の声です。現在のままだとJリーグから「改修は絶対必要」と言われました。

● 児玉さんにとってこれからのアルテリーヴォ和歌山とは？

和歌山に県民が集える新たなシンボルを作り上げること。この街にはアルテリーヴォ和歌山があるという県民が誇れる新たな存在になることです。

アルテリーヴォ和歌山を知っている人は多いですけどまだまだ根づいていません。シンボルがサッカーじゃなくてもいいんですけれど、今私たちができるのはサッカーです。サッカーの可能性を感じてやっています。そして、選手たちが引退しても、あらゆる形でかわりたいていと思える存在でありたい。その時、私はもう一度ゴール裏のサポーターに戻る。そうなるまでは何とか守っていききたいと考えています。

● 児玉氏がアルテリーヴォ和歌山に関わるきっかけとなった経緯

1990年代に横浜などでサッカーを観戦しているうちに、試合当日の町の雰囲気とか躍動感として高揚感に触れ、Jリーグのある町ではこういうことが行われているんだというのを目の当たりにしたんですね。このような賑わいや非日常的な光景を起させないだろうかと考えていたんです。すると、2005年に知り合いから「地元でサッカーチームを作る活動をしよう」と誘われ「お手伝いしますよ」と。始めはお手伝いのつもりだったんですけど、協力してくれた人への恩返し気持もありますし乗り掛かった舟なので主体的にやることになりました。

● 現在のお仕事は何ですか？

私はGMと「Jリーグチームをつくる会」の副理事長との兼任です。補強や予算を要求する側と要求される側が同じ人っていう本来おかしいことなんですけど(笑)人がいないのでやっています。お互いの立場がわかるので要求しづらい時もあるけど悲しかったりしますね。

● GMとして選手との接し方で気をつけていることはありますか？

時代でずいぶん変わるんですけど、現在はプライベートの部分ですごく気をつかいます。仕事や住むところのサポートなど職業を持つ選手がよりサッカーに専念できる環境を整えることです。そして査定もしなければなりません。選手がベストの状態プレーできるように、日常会話などからも意識しています。

